

平成20年度第1回知床国立公園利用適正化検討会議
(中央部地区作業部会同時開催)

平成20年7月22日 13:30～15:30

斜里町産業会館2階大ホール

1. 開会

2. あいさつ 環境省釧路自然環境事務所長

3. 議事

知床半島中央部地区利用の心得について

- (座長) 起草委員会を経てまとめたところだが、なにかご意見あれば伺いたい。
- (中易委員) 4ページの8番のところで「必要以上に」とする意図は何か。
- (座長) ちょっとわかりにくいと感じたが、どこに係っているのか。
- (事務局) 「慣れた」という部分に係っている。
- (座長) それはわかりにくいと思う。「人の接近に慣れすぎた」という意味ではないか。
- (知床財団) 座長の言うとおり、「人の接近に慣れすぎた」というのが一番わかりやすいと思う。「必要以上に」というのは最新の研究で、非常に高密度な生息地域ではクマ同士も激しく争わず、人に対しても寛容になるという見解もあり、そういった面からも、「必要以上に」という表現とした。
- (座長) このままだとわかりにくいので、「必要以上に」という部分を消して、今言ったような表現に修正して欲しい。
- (事務局) そのように修正したい。
- (新庄委員) 4ページについて、ダブって書いているところがあるが、これは改めて再掲してでも載せなければならないということか。
- (事務局) 命に関わることであり、再掲している。
- (新庄委員) 4番、5番、6番など前の部分でもヒグマと書いており、あえて書かずとも良いのでは。
- (座長) この件について、他の方のご意見はどうか。
- (ガイド協議会) 慣れすぎたクマが増えることはないと思うが。
- (座長) 事情を知らない人に対して伝えるものであり、良いのでは。
- (自然保護協会) 言い回しなどおかしい部分があり、全体的に書き直した方がよいと思う。まとめられないのならば他の人がまとめたらよい。ヒグマはまとめて書いた方がよい。
- (森林管理局) 起草委員会に出た立場であることを踏まえて発言するが、ヒグマが出過ぎているということであれば、ヒグマの記述ではなく、6番より前のところの記述を一般的な記述に修正した方がよいのでは。
- (中川委員) わかりにくいという指摘は確かだと思うが、ヒグマのことは安全のみならず、他のいろいろな利用の面からも重要であることから、このままで良いのではないかと思う。
- (小川委員) もう少し整理した方がよいと思う。
- (座長) 今までの議論から、ヒグマは知床にとって特徴的な存在であることから、強調しておくのは必要だが、もう少し整理してもいいのではという印象を受けた。ただここでどうするかというのは手間がかかるので、これはそんなに大きくかえるのではなく、私と事務局とで相談し、例えば財団とも相談して、まとめてみるということにしたいがどう

か。

(事務局) そのようにしたい。

(座長) ヒグマというのを書かずともヒグマを強調できるのではないかと思う。

(座長) 他の件でないか。

(自然保護協会) 3ページの5のペットを外に連れて歩かないという部分で、介助犬について何らかの記述をした方がよい。

(座長) これは何らかの検討をする必要がある。

(事務局) 介助犬については、管理の現場で悩まれる状況があり、2年ほど前に環境省として考え方を整理した経緯がある。一般的に人の同伴と介助犬というのは同様に扱うというのが常識になっている。知床についても基本的にそういう扱いになるがただ場所によっては細い木道などもあり、介助犬の利用に適さないところもあるということもあり事前に相談等をして欲しいという面がある。またそもそも誰もが使えるという考えで整備されている高架木道の利用を推進するということもある。このようなことから介助犬の扱いについては一言で説明出来ない部分がある。非常に表現が難しく、ご意見いただければと思う。

(座長) 介助犬の同伴についてはご相談下さいという書き方ではどうなのか。ペットというのはそれを除いているものと思うが、そのまま書くと、利用に適さない部分もあり、そのような記述が良いのではないか。

(事務局) そのように検討したい。

(小林委員) ヒグマの件だけでなく、ペットが持ち込む病原菌、虫などによる自然への影響についても記述した方がよい。

(小川委員) 全国的にみても、小林委員が指摘された事項について、明快に記述があるところはほぼない。福島県の森林公園にはあったが、他はペットを入れてはだめだということだけである。

(事務局) ペットの持ち込みによる具体的な自然の生物への影響があったかという事例は今の段階で出来ておらず、悩ましい問題である。知床のルールにおいては、ペットの持ち込みについてはヒグマの対策の面からきちんとやっていくことが最も重要であり、あえて他の理由は書かなくともよいかと考えている。

(座長) 小林委員の指摘は、知床半島の特徴を踏まえれば、他では記述していないことでも記述してもいいのではないかとということと思う。

(新庄委員) ペットの問題は微妙な状況であり、記述は難しい。今事務局の方でヒグマを刺激しないということであるから、ヒグマのことを取り出して言っている部分で述べてしまうのも一つの方法と思う。

(ガイド協議会) ペットを持ち込まないと断言してはだめか。

(座長) 7番目のヒグマの部分で取り上げることを考えたい。

(事務局) 沢山の人々が利用する中央部地区を考えた場合、10項目ならば読まれるという考えがあり、7の部分にいれるというよりも、項目として残しておきたい。

(座長) 5は生かして、表現を再考したい。

(小林委員) 7ページの情報入手先が電話とファックスだけであり、ホームページも記載すべき。

(事務局) アドレスを追記したい。

(新庄委員) 6ページの3番目のストックについて、スキーのストックを想定しているように思われるが、トレッキングスティックであれば、カバーをつけるなど工夫が始まっている。この件に関して質問が出てくると思う。

(斜里山岳会) 野営場という言葉は若い人には通じないので、キャンプ場に統一できないか。

(羅臼町) 外来種の件で、地元から指摘があったのでお話ししたい。外来種の芝の上で利用者の方に心得の説明をしても説得力がない。技術的な問題もあると思うが、できるだけ使わない努力が欲しいとの指摘があった。

(事務局) 外来種の件に関しては、国立公園の中で事業を行う場合は、できるだけ外来種を使わないようにという指導をしている。今後もそのようにしていきたい。

(座長) まとめになるが、心得については、ご指摘の点を踏まえて再検討いただき、修正の上、確定したい。ハイシーズンに入るためはやめにまとめて、周知していただきたい。実際に周知し、使ってみないとわからない部分もあり、途中で修正することはできないということで考えていただきたい。

平成 20 年度知床半島中央部地区利用適正化実施計画について

・ 羅臼岳登山者における携帯トイレ利用促進について

・ 知床国立公園マイカー規制に係る利用者動態予測調査について

(座長) 内容についてなにかご意見ないか。

(小川委員) 携帯トイレに関して、個別にリーフレットを配布しているということだが、どこで回収しているのかということや、どこで購入できるのかということはどうに情報提供するのか。ホームページでも記載する等検討が必要。

(事務局) ホームページについては効果的に情報を入手できるのはどこのサイトなのかが未整理な部分があり、各ホームページの連携や有効活用のあり方を考える必要があると考えている。

(座長) どこに携帯トイレの回収場所があるのかというのは大事なことである。どこでわかるようになっているのか。

(斜里町) 現場にはポスターを掲示しており、回収ボックス自体は必ず目にする位置に設置してある。また事前に北海道庁を通じて広い範囲で周知を行った。特にガイド関係者には重点的に行った。ホームページに関しては、町の方でも改良中である。

(小林委員) 提案であるが10ページの計画実施体制の部分で、4計画の策定ということでヒグマ管理計画の策定をした方がよい。これから作成していくという大枠を入れていただきたい。

知床国立公園ガイドブック(日本語版・英語版)の作成について

(斜里山岳会) 図面上の登山道が硫黄山で止まっているのは、通行止めになっているからか。

(事務局) そうである。

(小林委員) 英語版20ページの Regulation という表現は訳として不適切ではないか。

(事務局) 再刷の際には表現を再考したい。

閉会